

第59号

Super Highway

JR東労組バス関東本部

発行日  
2017. 2. 16

スーパーハイウェイ

発行責任者：遠山真一郎  
編集責任者：荒井雄太  
東京都渋谷区代々木2-2-6  
JR新宿ビル13F  
Tel.03-3375-5045 (NTT)

# 安全確立に向けて立ち上がった臨港バス交通労働組合 JRバス東京分会、JRバス東北・関東本部 激励行動をおこない、意見交換会を開催！！

2月15日、JRバス東京分会とJRバス東北・関東本部は中央本部・吉川委員長と共に、川崎市にある臨港バス労働組合を訪問し、12月に行われたストライキと17春闘に向けた激励行動をおこない、意見交換会を開催しました。

冒頭に臨港バス労働組合小山委員長から16秋闘で36年ぶりとなるストライキ行使に至った経緯を説明していただき、要員不足のなかで限界となった労働条件改善のたたかい、ほとんどの組合員がストライキの経験が無いなかで創りだした労働三権を深度化していく取り組み、そしてJRバスと臨港バス双方の会社経営・労働条件・労使関係の課題について議論を行いました。



川崎鶴見臨港バス(かわさきつるみりんこうバス)は、主に横浜市北東部・川崎市東部を走る京浜急行電鉄(京急)グループのバス会社で5つの営業所があります。経営状態は良好で利益率は日本のバス会社でも5本指に入ると言われています。2000年に分社化して設立した臨港グリーンバスを社会的背景から2010年に再統合しました。現在臨港バス労組組合員は約800人とJRバス関東と同規模です。統合した当時からの労働条件の特徴でもあった中休が多く、長時間拘束を含む行路が要員不足と会社による人件費抑制を理由に増加の一途を辿っており、その流れに歯止めをかけるために交渉を毎年行っていたものの、「いずれ改善するから」と先延ばしする会社に対して、団体交渉の限界性からストライキ権行使に至りました。



★1日16時間近い拘束時間で、5～6時間は無給にされる！

★中休勤務の回数制限と人員増が要求の基本

★大手との労働条件格差が人員確保を困難にしている

利益を溜めこむ会社に抗し、ストライキ権で挑んだ16秋闘において、①中休勤務手当の増額②60～65歳のフルタイム「準社員」に忌引き休暇など特別休暇の早期導入を確認しました。今回のストライキによって苦情は1割に留まり、9割が激励・理解を示していた結果から、臨港バス労働組合は「ストによってバス運転者の厳しい労働環境をアピールできた」と議論しています。まだまだ根本的な課題の解決には問題が山積していますが、安全運行と労働者の健康確保、生活できる賃金・魅力ある労働条件の実現へ向け大きな一歩となったことは紛れもない事実と全組合員で総括しています。

## 私たちJRバスにも労働条件改善・安全確立は共通の課題！ 臨港バスと共に安全なバス業界を目指し、17春闘を共にたたかおう！！